

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	成人看護学概論			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	1	A・B	1 (30)	講義	令和8年度前期
科目目標 成人期にある人の身体・精神・社会的側面の特徴を理解する。また、健康障害がある人を全人的に捉え、成人の特徴をふまえた看護の基本を理解する。 ①ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解する。 ②成人各期にある人の身体・精神・社会的側面の特徴と保健問題を理解する。 ③わが国の成人保健の動向や健康政策を理解する。 ④ヘルスプロモーション促進についての活動、支援について理解する ⑤成人にとっての健康障害の意味と健康障害のある成人の看護活動のあり方を理解する。					
授業概要 自らの体験（青年期）や身近にいる壮年期・向老期の人々とののかかわりを通して、成人各期の特徴を理解する。我が国における保健の動向と課題・健康政策や生活習慣病・健康づくりについて、自己の生活と関連付けながら理解する。成人にとっての健康障害の意味を成人各期の特徴や自己の体験等を通して考える。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・2・3・4・5・6・7・8・⑨・10・⑪・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 成人看護の対象 1) 成人の定義 2) 大人になること、大人であること 3) 大人の生活 2 発達段階、成人期における発達課題	10	2	8 ライフスタイルと健康問題 1) ストレスと健康生活 2) ストレスの3側面
2	2	3 各発達段階の特徴 1) 青年期 2) 壮年期 3) 向老期	11	2	9 生活行動がもたらす健康問題
3	2		12	2	10 成人への看護アプローチの基本 1) 大人の学習者 2) 行動変容 3) エンパワメント
4	2	4 働いて生活を営むこと 1) 働くことの意義 2) 労働環境と社会情勢 3) 働き方の未来（ワークライフバランス）	13	2	4) 成人への看護実践における倫理的判断（意思決定支援、インフォームドコンセント）
5	2	5 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 1) 成人を取り巻く環境	14	2	5) 成人期にある患者と家族 6) 家族の形態、機能 7) 成人期における家族の課題 8) 家族支援の実際
6	2	2) 成人のライフスタイルの特徴 3) 成人の健康の状況 4) 職業性・業務上疾病（過労死）	15	2	11 健康レベルからみた看護の特徴 1) 各期の身体的、心理、社会的特徴 2) 各期の看護の特徴と看護の実際
7	2	6 保健・医療・福祉システム 1) 施策の概要 2) 保健・医療にかかわる対策 3) 健康増進のための施策 4) 福祉にかかわる対策 5) 保健・医療・福祉の連携	【テキスト・参考書】 ・成人看護学総論、医学書院 ・厚生省の指標 国民衛生の動向、厚生労働統計協会 ・生涯人間発達論、医学書院 【成績の評価方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート □ ワークへの参加度		
8	2				
9	2	7 ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションとは、予防レベル 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための支援（生活習慣病、がん対策）			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	慢性期・終末期の看護			担当講師	専任教員・外部講師
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2 年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度前期
科目目標 慢性期にある成人期の特徴を理解し、健康障害の程度に応じた生活調整のために必要な看護を理解する。 終末期にある成人期の特徴を理解し、身体機能の低下や苦痛緩和への必要な看護を理解する。					
授業概要 慢性期では、慢性疾患とともに生きるための自己管理と生活調整のための看護の方法を理解する。 終末期の看護は、死を免れることができない対象に対し、限られた時間の中で、対象の人生の最期をその人らしく生き抜くことを支援する援助である。成人期において死を迎えるとはどういうことか、どのように対象を理解し、援助するかを理解する。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・⑦・⑧・⑨・10・11・12					
回数	時間 数	授 業 内 容	回数	時間 数	授 業 内 容
1	2	1 慢性病とともに生きる人を理解する 1) 慢性病の特徴、治療・看護の特徴 2) 慢性病をもつ人の特徴 3) 自己概念の変化	10	2	9 終末期医療における倫理 1) 終末期における倫理的課題 2) アドバンスケアプランニング 3) 終末期における意思決定支援
2	2	2 慢性疾患のある人の看護 1) 「病気の不確かさ」理論、自己管理のための対象理解 3 病みの軌跡 2) 病みの軌跡とは、軌跡の局面と移行	11	2	10 終末期の身体的ケア 【認定看護師】 1) 痛み 2) 倦怠感 3) 食欲不振 4) 悪心・嘔吐 5) イレウス 6) 便秘 7) 呼吸困難 8) 胸水 9) 転移性脳腫瘍
3	2	4 成人教育の特徴とセルフマネジメント 1) 成人教育学、自己効力、エンパワメント 5 自己管理のための援助 1) 慢性病の看護援助、看護者に必要な能力	12	2	10) 下部尿路機能障害 11) 高カルシウム血症
4	2	6 セルフマネジメントへの支援 1) 生活者として対象を理解、セルフマネジメントに必要な情報、共同目標の設定（アクションプラン設定）、評価のしかた	13	2	11 終末期の心理的ケア 1) 終末期にある人の心と援助 2) 終末期に起こりやすい精神症状と援助
5	2	7 慢性期の患者の看護 【看護過程の展開演習】	14	2	12 終末期の社会的ケア・スピリチュアルケア 1) 社会的ケア 2) スピリチュアルケア
6	2		15	2	13 終末期における退院支援 14 家族のケア
7	2		【テキスト・参考書】 ・成人看護学総論、医学書院 ・成人看護学③セルフマネジメント、メディカ出版 ・緩和ケア、医学書院		
8	2				
9	2	8 終末期の理解 1) 日本人にとっての望ましい死 2) 終末期にある成人の理解 全人的苦痛、AYA世代の終末期患者 3) 終末期における様々な概念 緩和ケア 死の判定と定義	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	急性期・回復期の看護			担当講師	専任教員 外部講師
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2 年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度後期
科目目標 看護の対象である人間と健康を理解し、総合看護の概念に基づく、看護の本質、看護の理論、看護の機能と役割について理解する。					
授業概要 急性期では病態をとらえ判断し、原因・要因対し的確な治療・看護を施すことが重要である。急性期・クリティカルな状況にある患者の特徴をふまえ、身体機能の安定化と悪化の防止、苦痛・苦悩、不快感の緩和、合併症の予測と予防、回復を促進するための看護について理解する。 回復期では対象を理解するために、回復期（リハビリテーション）の概念を教授する。対象が急性期を脱した後の心身の障害の受容過程について学習し、障害を持ちながら自立・自律した生活を送るために必要な看護援助について事例を用いて学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・⑦・⑧・⑨・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 回復期（リハビリテーション期）にある成人への看護 1) 回復期（リハビリテーション期）とは 2) 回復期の対象の捉え方 2. 障害受容への援助 1) 身体像の変化をきたした患者の反応 2) 喪失に対する適応過程と援助	10	2	10 手術後患者の看護 1) 手術直後の看護 2) 術後合併症とその予防
2	2	2 生活の再構築に向けての援助 1) 回復期のリハビリテーションと看護 2) セルフケア低下状態の Assessment と評価 3) セルフケア再獲得を支援する看護方法	11	2	11 周手術期の看護の展開 1) 術後1日目の寝衣交換（ロールプレイ）
3	2	3 障害受容への援助 1) 身体像の変化をきたした患者の反応 2) 喪失に対する適応過程と援助 3) 家族の状況（家族への看護）	12	2	2) 周手術期にある患者の看護問題、計画立案
4	2	4 回復期における看護の役割・機能・多職種連携 1) 新たな役割獲得への支援 2) 療養の場の移行支援	13	2	3) 術後1日目の観察（シミュレーション演習）
5	2	5 回復期にある人への看護（事例を使用したグループワーク）	14	2	4) 術後1日目の離床に向けた援助（シミュレーション演習）
6	2	6 急性期にある成人の看護 1) 生命の危機状態の原因 2) 急性期にある人の特徴 3) 急性期にある人の看護	15	2	12 クリティカルケア 1) クリティカルな状況にある患者、家族の特徴と看護、患者の早期リハビリテーションの実際 2) クリティカルケアにおける治療と管理
7	2	7 周手術期にある成人の理解と援助 1) 周手術期看護とは 2) 手術療法を受ける人の特徴 3) 手術侵襲による生体反応	【テキスト・参考書】 ・成人看護学概論、医学書院 ・臨床外科看護総論、医学書院 ・クリティカルケア看護学、医学書院 ・リハビリテーション看護、医学書院		
8	2	8 手術前患者の看護 1) 全身状態を整えるための支援 2) 外来/病棟/手術室看護師の術前の役割 3) 手術前日、当日の看護			
9	2	9 手術中患者の看護 1) 手術中の患者の状況 2) 手術中の看護師の役割 3) 安全管理 4) 麻酔と手術体位	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	呼吸・循環の機能に 障害がある人の看護			担当講師	専任教員		
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期		
第一看護学科	1年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度後期		
科目目標							
呼吸・循環機能が障害されたことによって生じる症状やそれらの症状が生じる機能の障害のメカニズムを理解する。また、その程度を明かにするために必要な検査や治療に必要な看護について理解する。さらに呼吸・循環機能の障害をアセスメントし、適切な看護援助を計画・立案するために必要な知識や技術を習得する。							
授業概要							
1. 正常な働きが障害されたときに生じる生活障害や苦痛について学ぶ。 2. 検査や治療に必要な看護を主要疾患を通して技術演習を交えながら学ぶ。 3. 患者に生じている苦痛や生活障害を改善するために必要な看護援助について学ぶ。							
卒業時到達目標との関連							
DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・12							
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容	
1	2	1 呼吸機能の構造と機能 2 呼吸機能に障害のある人の看護 1) 呼吸機能の障害によって生じる主な症状 ①呼吸困難		10	2	②動悸（不整脈）	
2	2	②咳嗽・喀痰 ③血痰・咯血 ④胸痛		11	2	【技術演習】 12誘導心電図の装着と観察	
3	2	2) 気管支喘息の患者の看護 ①気管支喘息の検査に伴う看護		12	2	③心不全	
4	2	②気管支喘息の治療に伴う看護		13	2	④血圧異常（高血圧）	
5	2			14	2	5 循環機能に障害のある患者（虚血性心疾患患者）の看護 1) 虚血性心疾患の主な検査、治療に伴う看護 ①心臓エコー ②心臓カテーテル検査、治療、IABP、血栓除去術 ③薬物療法 ④C A B G 、心臓リハビリテーション	
6	2	3) 肺がん患者の看護 ①肺がんの検査に伴う看護 ②肺がんの治療を受ける人の看護		15	2		
7	2	【技術演習】		【テキスト・参考書】			
				・成人看護学〔2〕呼吸器，医学書院 ・成人看護学〔3〕循環器，医学書院			
8	2	3 循環機能の構造と機能 1) 心臓の構造・血管の構造 2) 心臓の機能					
9	2	4 循環機能に障害のある人の看護 1) 循環機能の障害によって生じる主な症状と看護 ①胸痛		【成績評価の方法】			
				■ 筆記試験 レポート ワークへの参加度			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	脳神経・運動の機能に障害がある人の看護			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度後期
科目目標 脳・神経、運動機能が障害されたことによって生じる症状やそれらの症状が生じる機能障害のメカニズム、脳神経、運動器の障害や障害の程度を明らかにするために必要な検査や治療に伴う看護について理解する。さらに脳神経、運動機能の障害をアセスメントし、適切な看護援助を計画・立案するために必要な知識や技術を習得する。					
授業概要 1. 脳神経・運動機能の正常な働きが障害されたときに生じる生活障害や苦痛について学ぶ。 2. 検査や治療に必要な看護を主要疾患を通して技術演習を交えながら学ぶ。 3. 患者に生じている苦痛や生活障害を改善するために必要な看護援助について学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 脳・神経系の構造と機能 2 脳神経機能に障害のある人の看護 1) 脳神経機能の障害によって生じる主な症状と看護①意識障害	10	2	4 運動器の構造と機能 1) 骨の構造と機能 2) 関節の構造と機能 3) 神経・筋肉の構造と機能 4) 腱と靱帯の構造と機能
2	2	②運動障害	11	2	5 運動機能に障害のある人の看護 6 運動機能の障害によって生じる主な症状と看護、検査・治療に伴う看護 1) 骨折患者の看護
3	2	③高次脳機能障害	12	2	①骨折に伴う症状に対する看護 ②検査・治療に伴う看護
4	2	④嚥下障害 ⑤排尿障害	13	2	2) 関節リウマチ患者の看護 ①関節リウマチに伴う症状に対する看護 ②検査・治療に伴う看護
5	2	3 脳血管障害患者の看護 1) 脳梗塞患者の看護 ①脳梗塞患者の主な検査・治療にともなう看護	14	2	3) 腰椎ヘルニアの患者の看護 ①腰椎ヘルニアに伴う症状に対する看護 ②検査・治療に伴う看護
6	2	②脳梗塞患者の看護	15	2	【技術演習】 運動機能に障害のある患者の看護技術
7	2	2) クモ膜下出血患者の看護 ① クモ膜下出血患者の主な検査・治療に伴う看護 ②クモ膜下出血患者の看護	【テキスト・参考書】 ・成人看護学〔7〕脳・神経、医学書院 ・成人看護学〔10〕運動器、医学書院		
8	2				
9	2	【技術演習】 脳神経機能の障害がある患者の生活を再構築するために必要な看護技術	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	消化吸収・栄養代謝の機能に障害がある人の看護			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度後期
科目目標 消化吸収、栄養代謝機能が障害されたことによって生じる症状やそれらの症状が生じる機能障害のメカニズムについて理解する。					
授業概要 1. 正常な働きが障害されたときに生じる生活障害や苦痛について学ぶ。 2. 検査や治療に必要な看護を主要疾患を通して技術演習を交えながら学ぶ。 3. 患者に生じている苦痛や生活障害を改善するために必要な看護援助について学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 消化吸収機能に関する構造と機能 2 消化吸収機能に障害のある人の看護 1) 消化吸収機能の障害によって生じる主な症状と看護	10	2	2) 検査に伴う看護
2	2	①食欲不振 ②悪心、嘔吐、吐血（下血） ③腹痛	11	2	3) 栄養療法，食事療法の看護 ①栄養アセスメント ②経管栄養，経腸栄養を受ける患者の看護
3	2	2) 胃癌患者の看護 ①検査に伴う看護 ②治療に伴う看護 ③胃切除術後の患者の看護	12	2	4) 肝疾患の患者の看護 ①肝炎の治療に伴う看護：肝庇護療法，インターフェロン ②肝硬変の患者の看護
4	2		13	2	
5	2	3) 大腸がん患者の看護 ①検査に伴う看護 ②治療に伴う看護 ③ストーマ造設術を受ける患者の看護	14	2	③肝癌患者の看護
6	2	【演習】	15	2	5) 胆のう・膵臓疾患患者の看護 ①検査に伴う看護 ②治療に伴う看護
7	2	4) イレウスの患者の看護 ①イレウスの原因とアセスメント ②保存的治療に伴う看護	【テキスト・参考書】 ・成人看護学〔5〕消化器，医学書院		
8	2	5) 炎症性疾患 ①炎症性疾患の原因とアセスメント ②炎症性疾患の治療に伴う看護			
9	2	3 肝臓の機能に障害のある患者の看護 1) 主な症状に対する看護：腹水，吐血，下血	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	身体防御・内部環境を調整する 機能に障害がある人の看護			担当講師	専任教員・外部講師
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和8年度後期
授業概要 1. 身体防御・内部環境調整の正常な働きが障害されたときに生じる生活障害や苦痛について学ぶ。 2. 検査や治療に必要な看護を主要疾患を通して技術演習を交えながら学ぶ。 3. 患者に生じている苦痛や生活障害を改善するために必要な看護援助について学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 免疫のしくみと看護 1) 免疫とアレルギーのしくみ 2) アレルギーの検査・治療に伴う看護	10	2	8 内分泌・代謝器官に関連する構造と機能
2	2	2 皮膚疾患と看護 1) 皮膚の構造と機能（体表面の防御） 2) 発疹のある患者の看護	11	2	9 内分泌・代謝器官に障害のある人の看護
3	2	3 血液疾患と看護 1) 血液の構造・機能と造血のしくみ 2) 血液疾患のある患者の看護	12	2	1) 糖尿病の診断・検査に伴う看護
4	2		13	2	2) 糖尿病の治療に伴う看護 (1) 食事、運動療法 (2) 薬物療法（経口薬物治療薬、インスリン）
5	2	4 自己免疫疾患と看護 1) 自己免疫疾患をもつ患者の看護 2) 感染症に伴う看護	14	2	(3) 合併症予防と看護 (4) 退院後の継続看護と自己管理支援
6	2	5 内部環境に関連する構造と機能 1) 腎・泌尿器の構造と機能 6 腎・泌尿器の機能の障害のある人の看護	15	2	(5) 糖尿病看護の実際【演習】
7	2	1) 腎機能、泌尿器の障害によって生じる主な症状 7 腎機能、泌尿器に障害のある人の看護 1) 急性・慢性腎不全患者の看護	【テキスト・参考書】 ・成人看護学〔12〕皮膚，医学書院 ・成人看護学〔4〕血液・造血器，医学書院 ・成人看護学〔11〕アレルギー膠原病，感染症，医学書院 ・成人看護学〔8〕腎・泌尿器，医学書院 ・成人看護学〔6〕内分泌・代謝，医学書院		
8	2	2) 前立腺肥大症患者の看護 3) 前立腺がん患者の看護			
9	2	4) 透析を受ける患者の看護 【認定看護師】	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		